

第35回 評議員会（2015年1月17日開催）報告

於：朝日生命大手町ビル 24F

1：趣旨

日本ユネスコ協会連盟(以下日ユ)の第35回評議員会に九州ブロック選出青年評議員として出席した件について個人の責任の下報告を行う。

内容については当日の資料及び記憶に基づくものであり、数字等の正確性については必ずしも保証するものではないことを明記する。

2：今回の主な内容

- ・松田会長挨拶
- ・第34回評議員会議事要録の承認
- ・日ユ協連の事業報告及び今後の日程(案) (2014年11月～12月)
- ・小部会報告
- ・2015年度事業計画案及び予算案について
- ・質疑応答
- ・ブロック別情報交換会

3：個人的に印象に残ったこと、及び感想

● 全国大会の今後について

2015年度は和歌山(2015/6/6～7)、2016年度は沖縄、2017年度は仙台を予定していることが報告された。

仙台についてはユネスコ会館の建て替えの問題があり、再来年までの対応が今後の課題となるとのこと。

● 小部会報告にて各部会の報告が行われた。

➤ ESD パスポートについて

今年度はユネスコスクールのみが対象となっていたが、ユネスコスクールが存在しない地域でも ESD パスポートに対する関心が高まっており、次年度以降にユネスコスクール以外にも適用可能にすることを検討しているとのこと。

地域ユネスコ協会で運営する側が ESD パスポートに対する理解が不十分であるという例が出てきているため、事例集等の検討も始まりつつある

➤ 民間ユネスコ運動の手引について

先日配布したものから文言の修正を行ったものを第一般として扱い、今後よりブラッシュアップしていく予定とのこと

➤ 全国大会とブロック大会のあり方について

全国大会については継続の意志が多数であることを認識し、ブロック研究会については全国大会とは異なり研修会とするべきであるという意見が多かったとのこと。

日ユとして実務担当者会議を入れてはどうかという提案をしたところ、概ね賛成を得られたが、

文責：大分県ユネスコ協会連盟 佐藤隆士
(九州ブロック選出評議員)

実情としてすぐにプログラムに組み込むことは難しいため、来年のブロック大会で実施できるところは組み込み、できないところは別途とするよう検討が進められている。

- 構成団体会員の人数制度について見直しの検討内容報告
 - ①構成団体の構成員が24人以下の場合は人数によらず一律年間25,000円としたい
 - ②協会を新設する場合は最低人数として25人以上必要とする
 内容について検討中だが、今後の見直し策として取り上げられていく模様。
- 青少年関連
 - ◆ 青年会員対象の研修参加支援プログラムを開始

活用第一号は松山ユネスコの小崎さん名古屋で行われたESDに関するユネスコ世界大会に参加してきた。

内容について今回の評議員会内で報告。
 - ◆ ユネスコ子どもキャンプについて、キャンプを実施することによって運営する青年たちがリーダーとして成長し定着してくれることを目指す。

今年は岐阜で取り組み、次年度以降も実施していく予定。
 - ◆ 青年情報交換会

現在は評議員および全青連のメンバーを中心に話しているが、将来的にはより広く意見の交換を行い、リーダーを育てていきたいと考えている。

先日第一回の会を持ち、地域にリーダーが不足していることが共通認識として挙げられた。
 - ◆ 青年ユネスコ活動助成

最大20万円までの助成を実施。

件数が少ない場合の追加募集も可能なものとした
- 2015年度の事業計画について

予算の面で青少年事業に対してかなり力を入れていく方針であることが説明された。

また、各地のユネスコ協会に対するサポートとして人員派遣の出張費の増額やデータベースの新設などが説明された。

助成金も活用しやすいよう配慮されているため、地域で活用していくことで活性化につなげていくことが大事と思われる。
- 質疑応答

質疑応答については時間が差し迫る中ではあったが、データベースというものがどのようなものかについて筆者より質問させていただいた。

それによるとデータベースには15万円の予算を見ており、100協会分のアカウントを開くことを検討しているとのこと。

各協会から申請することでデータベースにアクセス可能となり、現況報告等に活用していく予定とのこと。

以上

文責：大分県ユネスコ協会連盟 佐藤隆士
(九州ブロック選出評議員)